

山雲水月

発行責任者 仁叟寺 住職 渡辺啓司



祝『仁叟寺誌』刊行！



『仁叟寺誌』が遂に5月に刊行されました。平成13年8月末に寺誌編纂委員会が発足し、爾来足掛け7年にわたった一大事業もようやく終了となったわけです。

かんしゅう

監修には副住職の学生時代

ほかそのとよちか

の恩師である外園豊基早稲田大学教授を依頼し、ご多忙中時間を割き尽力くださいました。編纂委員の方々はもとより、町教育委員会、町文化財保護委員、佛教造形研究所、県文化財研究会、日本古鐘研究会はじめ多くの関係者のご協力を賜り、刊行となった訳であります。

↑上毛新聞（5/26掲載）

を割き尽力くださいました。編纂委員の方々はもとより、町教育委員会、町文化財保護委員、佛教造形研究所、県文化財研究会、日本古鐘研究会はじめ多くの関係者のご協力を賜り、刊行となった訳であります。



↑2,000冊もの寺誌搬入作業

去る5月27日（日）には、仁叟寺本堂に於いて寺誌刊行記念法要を檀信徒・関係者ら約80名ほどが見守る中、修行されました。『仁叟寺誌』発刊は大きな反響を呼び、上毛新聞・読賣新聞・産経新聞・中外日報・吉井広報など多くのマスコミにも掲載されました。

過去現在未来を紡ぐ歴史の光

明を当てる寺誌として、関係者一同自負をしております。購入を希望される方は、印刷実費6,000円にて頒布をしております。当寺までご一報のほど、お願い申し上げます。

→刊行記念法要では本尊さま前に『仁叟寺誌』が供えられた



平成19年

仁叟寺年間行事予定

- 1/1～1/3 年頭祈禱
- 1/3～1/7 年始挨拶
- 2/3 大節分会
- 2/15 釋尊涅槃会
- 3/11 大般若/施食会法要
- 3月中旬 筆供養法要
- 3/18～3/24 春季彼岸会
- 4/8 釋尊降誕会(花祭り)
- 5/27 寺誌刊行祝賀会
- 6/22～6/24 第45回緑蔭禪の集い
- 7/13～7/16 京浜地区盂蘭盆会
- 7/23～7/24 第26回子供禪の集い
- 8/13～8/16 盂蘭盆会
- 9/20～9/26 秋季彼岸会
- 10/20 檀信徒研修参拝旅行
- 12/8 釋尊成道会
- 12/31 除夜会
- 毎週土・日曜日 書道教室
- 毎週水曜日 定例坐禅会
- 隔週水曜日 華道教室・梅花講稽古

大般若会に岡部央先生による仁叟寺の仏像講義



↑ 岡部央先生による仁叟寺の仏像講義

去る3月11日（日）に行われました恒例の大般若会兼大施食会法要に際し、『仁叟寺誌』編纂に当たって非常に尽力いただきました県内仏像の権威であり群馬県立文書館の岡部央先生による講義を賜りました。「仁叟寺のほとけさま」と題され、総数500点を越える仁叟寺の仏像について、スクリーンや写真を多く掲載した資料などを用いた判り易い講義でした。講義を聴かれた方々は、歴史ある仁叟寺の仏像についての認識を新たにいたしました。

補修の必要な仏像も数多くあります。信仰の対象であり、かつまた歴史を伝える文化財でもある「ほとけさま」を後世に引き継いでいくこと、これも大切な使命であると考えております。

スリランカ国との交流

去る4月18日（水）、当寺と交流のあるバーナガラニウパティッサ・スリランカ大菩提会住持ご一行さまが仁叟寺へ来寺いたしました。老師のほか、スリランカ国の首相補佐官も来寺し、スリランカ国と交流のある当寺の視察を行いました。住職・副住職の案内のほか、金子明総代長などが集まり関係者の皆様と昼食を交え、交流を行いました。

後日、スリランカ国の主要紙に仁叟寺の記事が大きく紹介されました。『仁叟寺誌』にも記載があるように、スリランカ国との国際交流は、寄贈された仏足石のほか多岐に亘ります。これからも仏教を軸とした草の根の国際交流を、地道にしっかりと行っていく所存です。



↑ 仁叟寺が掲載されたスリランカの新聞

仁叟寺探索-17-

今回の仁叟寺探索では、仏具である妙鉢の紹介をいたします。

妙鉢はシンバルに似た打楽器の一種で、伎楽供養具のそうはつ みょうはつ どうはつ一。双鉢・鑊鉢・銅鉢ともいい、主に葬儀や施食会の開式や閉式時に使用されます。また十八拜差定など荘厳な儀式に於いても使用されます。仁叟寺の妙鉢は、銅製打金で造られています。仁叟寺所蔵の妙鉢には、江戸時代二双・明治時代一双・平成期一双・時代不明一双の計五双が残されています。その全てが現役でいまでも荘厳な音を醸し出しております。

特に「二十二世高天代」と銘がある妙鉢や寛政八年（1796）の銘のある妙鉢もあります。二十二世靈明高天大和尚は、文化二年（1814）8月20日に晋山を果たしました。文政八年（1825）4月8日に遷化したとあり在山期間は約11年であったと言われております。



みょうはつ

↑ 妙鉢

→ 「仁叟高天代」の銘

秋の檀信徒研修参拝旅行参加者募集



↑ 昨年伺った林泉庵さま（新潟県魚沼市）

今年の秋に恒例の第三回となります檀信徒研修参拝旅行を行う予定です。今回は、仁叟寺の御本寺である雙林寺さまはじめ北毛地区を中心に参拝研修旅行を企画いたしました。詳細は後ほどご案内いたしますので、興味のある方は、是非ご参加いただければと思います。

雙林寺さまは、仁叟寺の御本寺であります。江戸時代には上野国（群馬県）のみならず信濃国（長野県）・佐渡国・越後国（いずれも新潟県）の計四ヶ国の僧録でした。僧録とはその地域の中心となる寺院のことを指します。渋川市中郷（旧子持村）に広大な寺領があり往時を偲ばせる荘厳なご寺院さまです。

ほか、近隣のご寺院さまはじめ匠の里などの観光地に伺い、紅葉映える秋の北毛を散策する旅行を企画しております。ご家族ご友人など奮ってのご参加をお願い申し上げます。

住職徒弟俊司和尚結婚報告

去る4月28日（土）に、仁叟寺本堂に於いて住職の次男であり弟子である俊司和尚と美季さんの結婚式が執り行われました。御式師は前橋市長昌寺栗木信昌老師、御媒酌人にサンコー72カントリークラブ社長寺本欣一治ご夫妻に御依頼申し上げ、多くの方々に見守られた式を挙げることができました。引き続き、サンコー72カントリークラブにて披露宴を行いました。

俊司和尚夫妻は、今秋ころより仁叟寺末寺である長野県佐久市の信永院へ移る予定です。二人のこれからの出帆を祝し、更なる精進を期待しております。



↑ 仁叟寺での仏前結婚式

初彼岸会合同法要

仁叟寺では、初めてのお彼岸会を迎えられる諸精霊に対し、春秋二回のお彼岸会のお中日に初彼岸会の合同法要を行っております。

日時は春季彼岸会が春分の日、秋季彼岸会が秋分の日で、朝9時から修行をしております。大勢の方々が見守っております。該当なさる檀信徒の皆様方には、当寺より通知が届きますので、より多くのご縁のある皆様のご参列を賜りますようお願い申し上げます。



平成18年度寄進者紹介



為積善院菩提供養	薬師堂用礼盤 <small>らいばん</small>	東京 篠崎浩
為先祖代々菩提供養	御影石製五尺角燈籠	東京 篠崎浩
為総代人就任記念	開山堂入口縮緬幕 <small>ちりめんまく</small>	中島 森久
為先祖代々菩提供養	正絹特上羽二重改良衣	多胡 神保武長
為石塔開眼会供養	千手観音前礼盤	吉井 鈴木昭子
為先祖代々菩提供養	しだれ松一株	玉村 新井儀平
為両親菩提供養	千手観音前盤子及び盤子台 <small>けいす</small>	長根 田村喜一
為翔空孩子菩提供養	子育観音木像	神保 神保尚一
為先祖代々菩提供養	慈光観音石像	高崎 福島英男
為先祖代々菩提供養	狛犬御影石台座一对	高崎 篠原敏子
為先祖代々菩提供養	山門堤燈一对	多比良 武藤保
為新盆諸精霊供養	本堂西奥畳替 <small>じゅうたん</small>	吉井 川上哲
々	欣光閣中廊下絨毯張替	新盆檀信徒一同
々	紹中衣一着 <small>さるすべり</small>	々
為先祖代々菩提供養	百日紅	吉井川 矢嶋巖
為先祖代々菩提供養	百日紅	神保 柿田和良
為花月院菩提供養	山門前御影石製天燈鬼立像 <small>てんとうき</small>	吉井 飯塚喜久義
為石塔開眼会供養	々	神保 木野内恒夫
々	々	吉井 篠崎永治
為先祖代々菩提供養	御影石製合掌菩薩像	藤岡 井上松男
為石塔開眼会供養	々	中島 森雅廣
為石塔開眼会供養	々	東京 向井重郷
為先祖代々菩提供養	金色六角型燭台一对 <small>しょくだい</small>	吉井 荻原隆太郎
々	々	藤岡 齋藤さく
々	々	吉井 桑子亀七
為先祖代々菩提供養	除夜会・大節分会・大般若会供物品	多胡 齋藤徳喜
		吉井 神保孝子
		高崎 寺本欣一治

行雲流水 (編集後記)

編集人 副住職 渡辺龍道

既に檀信徒の皆様方のお手許に届いておりますゆえ、御存知のことと思われませんが、『仁叟寺誌』が、約7年の歳月を費やし漸く刊行に至りました。予定よりも時間・頁数・費用など大幅に超過いたしました。しかし、内容に関しましては歴史書として遜色ない寺誌が完成したと自負しております。これも、監修を務めてくださいました恩師である外園豊基早大教授の長年に亘るご尽力はじめとする、多くの縁のある方々のお力添えの結晶であると信じております。当初は刊行に至らないのではないか、と思ったこともありましたが、本当に様々なご縁に感謝するのみです。ありがとうございました。